

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700168		
法人名	医療法人 扶老会		
事業所名	グループホームふなき		
所在地	山口県宇部市大字船木833番地		
自己評価作成日	平成27年10月25日	評価結果市町受理日	平成28年5月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の敷地内には高齢者が医療と介護のサービスを個々の状態に合わせて安心して受けることができる連携体制が整っています。高齢者の方におきましては総合ケアヒルズと言えます。ホームには中庭も有り、園芸などに活かされています。(兎を1羽ホーム内で飼育もしています)お食事に於いては昼食をホーム内にて調理して提供させて頂いています。献立決めの際にはご利用者の好みを取り入れ、隣接する施設の管理栄養士監修のもと、栄養バランスも考慮しております。職員は目標管理制度MBOに全員取り組んでいます。(年1回)個別に目標を設定するため、仕事に対して具体的なイメージを掴むことができています。また、個別レクリエーション(月2回)も取り組み、個別なご希望に添えるよう努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が元住んでおられた地域へのドライブ、地域の祭りや商店での買物など馴染みの場所に出かけられたり、元の職場の仲間や趣味の仲間など馴染みの人の来訪時には利用者と一緒写真を撮り、再来訪につながるきっかけづくりをしておられるなど、利用者が今まで大切にされて来られた馴染みの人や場所との関係を大切に支援しておられます。栄養バランスの取れた朝夕の法人からの配食と、昼食は利用者の希望を聞いて献立を立てられ、管理栄養士の助言を受けて事業所で食事づくりをしておられ、利用者の状態を考慮した形態の工夫や治療食の提供、季節を考慮した行事食などの工夫をして食事を楽しむことのできる支援をしておられます。利用者のその人らしい暮らしを支えるためにひとり一人の会いたい人や行きたい所、食べたいものなど、思いや意向の把握をされ、月2回の個別レクリエーションの実施につなげておられ、和やかな雰囲気の中で利用者は穏やかで明るい表情で過ごされている様子が窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印				
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と			
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと			
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと			
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない			
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように			
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度			
			3. たまにある				3. たまに			
			4. ほとんどない				4. ほとんどない			
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない			
			4. ほとんどいない				4. 全くいない			
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない			
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が							
			2. 利用者の2/3くらいが							
			3. 利用者の1/3くらいが							
			4. ほとんどいない							

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自で作ったの4つの理念を軸として実践につなげている。ホーム内に掲げている。迷った時には原点回帰する。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。会議やケアカンファレンス時に確認し、日々のケアに迷いが生じたときには、理念に立ち戻って話し合い、理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営会議、ボランティア、お隣の住民とのお付き合い、地域のお祭り参加等を通して地域との交流を図っており、孤立しないよう努めている。	利用者は地域の祭りやふれあいセンターでの雛祭りに、職員と出かけて地域の人と交流している。法人の夏祭りや年2回あるフリーマーケットに参加して地域の人や子どもたちと交流している。定期的に来訪しているボランティア(楽器演奏、昔話、マジックショー、ジャズ演奏)の人や隣接の高齢者賃貸住宅住民と日常的に交流している。看護学生の実習を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議において、認知症のことをはじめ、高齢者の病気等に関して地域貢献という形で発信している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価は、サービスに対して立ち止まって改めて考えさせられる。またさらなる質の向上になる為、大変有意義であり、続けていきたい。	管理者は評価の意義を説明した後、自己評価をするための書類に記録してもらい、リーダーと2人でまとめている。自己評価を日々のケアの振り返りと捉え、サービスの質の向上につなげていくように話し合っている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立てて、職員を育てる取組みや緊急時の対応について改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議において報告や話し合いを積極的に 行ない、貴重なご意見をサービスの向上に 活かしている。	会議は2か月に1回開催し、利用者の状況や 行事予定、事故報告、外部評価結果報告、 避難訓練等の報告をして、話し合いをしてい る。毎回、ミニ勉強会（骨折、感染症など、そ の時期に話題となるもの）を実施している。参 加者からは地区の行事の紹介や個別レクリ エーションへのヒントなどの提供があり、意見 をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話、FAX、メール等において宇部市の担 当の方にはご指導していただいています。こ ちらからも出来るだけ出向くようにしていま す。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、直 接出向くなどして、情報交換や申請内容、事 例相談を行い、助言を得るなど協力関係を築 くように取り組んでいる。地域包括支援セン ター職員とは、電話で情報交換や事例相談 を行うなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などを通して、繰り返し身体拘束をし ないケアを認識し、理解を深めている。また、 老健の身体拘束委員会へ出席し情報を共有 している。	マニュアルがあり、職員は内部研修で学び、 身体拘束の内容や弊害について正しく理解 している。玄関には施錠をしないで外出した い利用者とは一緒に出かけるなどして身体拘 束のないケアに取り組んでいる。スピーチロッ クや不適切なケアがあれば職員間で話し合 い、管理者やリーダーが指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を 払い、防止に努めている	虐待に関しても、繰り返し、勉強会などを通 して注意を払い、また、TVのニュース等で虐 待事件があればそれに関して、話題に上げ たり、防止の意識付けも努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	研修などで学ぶ機会を設けている。また成年 後見人は利用者御家族が活用出来るように 迅速に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際は時間を掛けて、決して一方的な説明にならないように注意を払い、十分な説明と疑問点が残らないようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の苦情はもちろん、ご意見も貴重な宝と位置づけて、真摯に受け止め、出来るだけ早い段階で改善等に結びつけるようにしている。	相談や苦情の受付体や処理手続きを定め、第三者委員を明示して、契約時に家族に説明をしている。運営推進会議参加時や面会時、行事参加時に直接家族から意見や要望を聞いている他、電話や年1回の「ケアと環境に関するアンケート」、意見箱を設置して聞いている。排泄ケアの取組みや床のメンテナンスについての意見を運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者は基本的に職員の意見や提案などに比較的反映しやすい態勢であり、幅広くサービス向上に反映している。	2か月に1回ある全体会議には、法人の事務長と看護師長も必要に応じて出席して、職員からの意見や提案を直接聞いている他、年1回の個人面接時、目標管理制度でのテーマ設定時における話し合い時にも聞いている。管理者とリーダーは職員がいつでも意見が言えるように雰囲気づくりに努めている。業務改善や建物の管理、メンテナンス(蜂の巣の発見や花壇の活用、床のワックス等)、感染症対策等についての意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度(MBO)を設け年に1回、各職員が作成した目標達成に向けてやりがいをもって日々勤務している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず、積極的に研修している。それぞれの職員に合った研修の機会を設けるようにしている。	外部研修は情報を職員に提供し、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。復命書を提出し、資料とともに回覧して全員が共有している。法人研修は委員会が計画して、感染症予防や認知症、緊急対応、パルスオキシメーターなどのテーマで実施している。内部研修は月1回職員が交代でテーマ(急変時の対応、身体拘束防止、虐待防止、脳の健康、夏の対策等)を決めて担当し実施している。職員は日々の業務の中でMBO方式を基にした自己研鑽に取り組み、サービス向上に取り組んでいる。新人職員は日々の業務の中で管理者やリーダー、先輩職員から介護の知識や技術を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、研修などでの意見交換、GH協会の参加などを通じて自らのサービスを見つめ直している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とはサービス導入前に見学、訪問などで少しずつ慣れていただいたりして、ニーズの把握に努め、不安の解消を図っている。本人以外からも情報を収集して慎重に取り組んでいる。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の方とは良く情報交換してスムーズなサービス導入、移行になるよう計画作成者中心に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応に際してはニーズをしっかりと把握して、サービス利用時に精神的負担などないよう、情報を共有して支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を人生の先輩として敬う姿勢を持って接している。時には入居者様の経験や知恵を借りたりと、お互いに協力し合える良好な関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のことで、時にはご家族様にも相談したりと、本人様にとって良いケアとは何かをご家族様にもスタッフと一緒に考えて頂き、家族との交流を深めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお祭りや演奏会等のイベントへの参加や地域ボランティアの訪問、お墓参り、盆、正月には家族の協力を得て地域に出向き、馴染みの人や場所が途切れないよう支援している。	家族や親戚の人、友人(職場の仲間、趣味仲間)、近所の人などの来訪がある他、毎月事業所便りで利用者の状況を知らせたり、手紙や電話、メールでの交流を支援している。地域の祭りや御大師様参り、馴染みの商店での買物、ドライブで住んでいた地域に出かけたり、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や買物、外泊、法事や結婚式への参加、墓参等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。友人の来訪時には写真を撮り、再来を約束するなどの工夫をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないように、職員が間に入って会話の輪を広げたり、ゲームやレクリエーション等活用し、輪の中に入ってもらうなど支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもお写真を送付したり、病院に入院して退去してもお見舞いに行ったり、ご家族様の相談に応じたり、断ち切らない支援に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して入居者様の情報を得て、把握に努めている。本人の希望や意思を尊重し、申し送りノート等活用して意向に添えるよう検討している。	センター方式を活用して家族や本人から、趣味や特技、生きがい、嗜好、希望などの情報を把握している他、日々の関わりの中で表情や楽しそうな場面、言葉などを介護記録に記録し、会いたい人や食べたいもの、行きたい所など、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、本人、家族、関係者から暮らしの把握をしている。生活の中での会話や行動を記録し、本人の望む暮らしの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を取り入れ、残存機能、潜在能力を引き出す支援、ケアに取り組んでいる。心身の状態等の現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良いケアプランの作成の為に家族会議やケアカンファ等行っている。	管理者や計画作成担当者、利用者を担当する職員を中心に月1回、ケアカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、かかりつけ医や看護職員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている。状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のカルテや1日の日誌により、ホーム全体の情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の様々なサービスに対応すべく、形にとらわれないサービス(主に個別レク、個別ケア)にて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事など地域の人を呼んだり、地域の行事に出かけたりして交流している。地域のボランティアの方も定期的に訪問していただいている。近所の方と協同で消防訓練も実施している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の同意の上、グループ内クリニックの医師を主治医とし、普段の健康管理を行っている。他科受診については希望があれば紹介状を用意し、対応支援している。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は、夜間や緊急時の対応をしている。他科受診は、情報を提供し、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は電話や来訪時に報告して共有している。事業所には看護職員2名が勤務し、利用者の健康管理を行い、必要に応じて受診時の情報を提供するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師と法人内のクリニックの看護師と常に情報を伝えあっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設内病院とは情報交換は十分に出来ており、すぐに対応出来ている。また他の病院などとも同様に相互に協力しあい早期の退院などに繋げている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人・家族との話し合いをして、終末期ケアのあり方について意向を聞き、把握に努め支援している。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から、家族や主治医と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を共有して、支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故が起きた後は報告書に記入し、再発防止に取り組んでいる。誤薬等については薬を入れる箱を色分けし区別している。薬セットのWチェックも毎日行っている。徘徊によるホーム外徘徊事故防止の為にセンサー設置。応急手当初期対応の知識・実践力は定期多岐な勉強会研修等で身につけている。	発生した場合は、その場にいた職員がインシデント、アクシデント報告書に発生状況や対応、要因、対応策を記録して回覧し、翌朝の申し送り時に伝達して共有している。全体会議時に再度話し合い、ひとり一人の事故防止に取り組んでいる。法人の身体拘束委員会に報告し、助言も加えた記録はいつでも閲覧できるようにしている。消防署の協力を得て2年に1回程度、救急救命法とAEDの使用法の研修を全職員が受講している。事故発生に備えて発熱時の対応や外傷の手当、観察の要点等の実践訓練を実施している。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。隣接する住民も参加し、避難場所は利用者に繰り返し指導している。全職員も把握出来ている。	消防署の協力を得て、年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練、通報訓練、避難経路の確認、消火器の使い方について、利用者や隣接の高齢者賃貸住宅の住民も参加して実施している。法人全体で災害時の協力体制を整備している。非常用食品(水や食料)は事業所で確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレのドアをこまめに閉めたり、ドアノックをしたりまた、言葉掛け、態度等に十分注意を払い、個々のプライバシーと人格の尊重に注意し、常に笑顔で対応している。	管理者やリーダーは、法人の理念にあるひとり一人の人格を尊重することについて、全体会議やケア会議の中で職員と話し合っており、職員は親しみを持ちながらも馴れ馴れしくならないよう注意して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の取り扱いには留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりとひとりひとりとコミュニケーションをとり、常にオープンで愛情持って接している為、入居者様が何でも話し合える様な雰囲気作りに心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に応じ、その日その日で体調や気分を考慮し、無理のないように過ごしてもらえ様、心掛けて支援している。性格にも合わせたスケジュールに添う様にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、ご本人の気に入った服を着てもらったり、愛用のアクセサリを身につけてもらったりしている。朝の整髪をサポートしたり、服装の汚れがないか確認も日々行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回の献立決めでは希望の献立を取り入れている。誕生日には、ご本人の好みの食事を取り入れた特別メニューを提供している。同じテーブルで同じ食事を摂っている。台拭き、食器洗いなども行って頂いている。	朝食と夕食は法人からの配食を利用し、昼食は利用者の希望を聞いて季節感のある献立を立て、事業所で食事づくりをしている。栄養については管理栄養士の助言を受け、食品交換や形態の工夫をしている他、治療食の提供もしている。利用者は野菜の下ごしらえ(ごぼうのささがけ、キュウリを切る、蒟蒻の皮剥き)やお茶汲み、盆拭き、台拭き、膳を運ぶ、食器を洗うなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、会話しながら食事をしている。誕生日には本人の好みの献立(赤飯、寿司、ケーキ)にし、おやつづくり(焼芋、杏仁豆腐、ゼリー)や戸外中庭でのティータイム、年5回程度の外食、季節の行事食(恵方巻、鰻、ソーメン、節句の寿司、餅つき)など、食事を楽しむ支援を多くしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談し、栄養のバランス、体重管理をしている。時間を決め、必ず水分補給をしている。刻み、トロミなど食べやすいように摂取法も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しと見守りをしており、出来ない方は職員がお手伝いをしている。また協力歯科医院には常時連絡し、車で送迎及びその他口腔内の相談も随時行っており、清潔の維持も注意している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や声掛けを行い、排泄の自立を促している。排泄のパターンを把握して、出来るだけ失禁をしないよう個々に合わせた誘導もしている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、習慣を活かして利用者ひとり一人に合った言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。入居後に布パンツに戻ることでできた利用者があるなど、個別の排泄支援を計画的に行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄困難の方は、薬の服用又は坐薬を使用している。又、ヨーグルトやヤクルトの乳酸菌食物繊維なども積極的に摂るようにしている。運動・体操も取り入れ便秘予防している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を定めているが、本人の都合や気持ち、タイミングを考慮して支援している。入浴日以外でも希望があれば入浴してもらったり、入浴したくなければ無理強いはいしないように、清拭をしたりと個々に応じた支援をしている。	入浴は毎日、13時30分から17時30分までの間可能で、入浴時間や順番、湯加減など利用者の希望に合わせて、ゆったりと入浴できるように支援している。入浴剤の利用や柚子湯にして季節感を味わえるようにしている。入浴したくない人には、無理強いしないで、言葉かけの工夫や時間を変える、職員の交代などの工夫をしている。利用者の状態に合わせて、清拭やシャワー浴をするなど個々の状況に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子を観察して、傾眠気味の方は少し自室で休んでももらったり、季節や時季に応じて寝具管理をしたり、入居者個人に合わせて入床する時間を調節したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートを作成し個々の病気、薬の知識の理解に努めている。サイトでもすぐに調べるようにしている。また必ず服用前に確認をし、支援をしている。薬の作用などの不明点があれば薬局やドクターに直ちに確認するようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	働く事が好きな方は家事手伝い(皿洗い、掃除、草取り等)をしてもらい、達成感を味わってもらっている。又、毎月行事を催し、地域の方々とのふれあいで皆さんとのコミュニケーションを取ったり、楽しみや気分転換を支援している。	掃除(モップ掛け)、シーツを外す、シーツを掛ける、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、新聞を取り込む、野菜の下ごしらえ、お茶汲み、台拭き、盆拭き、膳を配る、うさぎの世話、買物、花を生ける、仏壇にお参り、テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌を読む、かるた、トランプ、貼り絵、モザイク画づくり、パズル、文字並べ、バランスゲーム、カラオケ、ハロウィンパーティ、ボランティアの来訪(生け花教室、マジックショー、楽器演奏、ジャズ演奏、昔話)、季節行事(餅つき、節句)など、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	第1、2日曜日は個別レクの為、入居者様と話し合い要望等を聞いて、出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。本人が買い物に行きたいとの希望があれば外出支援している。	周辺の散歩や日光浴、買物、外食、季節の花見(桜、紫陽花、つつじ、牡丹)、ドライブ(自宅周辺、江汐公園、夢広場等)、初詣、御大師様参りに出かけている。個別レクを設けて利用者の希望に添って買物や食事にでかけている。家族の協力を得て、美容院の利用、結婚式や法事への出席、墓参、外食、買物など戸外に出かけることができるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、職員が管理している。個別レクでの買い物やフリマなどの行事の時などは財布を渡し、自分でお金を使って買い物ができるようにしている。出納帳も記帳している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より手紙年賀状が届くなどすると、ご本人に渡し、お返事などを書いて頂くようにしている。又、頂き物等あった場合、お礼の電話を、掛けてもらい、本人が希望すれば電話をかけ、お話をさせて頂いている。携帯電話所持可。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル等にはいつも季節の花を飾り、話題作りになっており、中庭にも季節ごとに苗を植えかえたりと工夫している。壁にも月毎にテーマを決め、スタッフ、入居者様と共同作業し作成しており、居間作りを心掛けている。	広々としたリビングにはオープンキッチンがあるスペースや自由に配置換えできるテーブル、テレビの前にはゆったりとくつろげるソファが配置してある。壁には利用者が作成した季節の飾り物やスナップ写真が展示しており、利用者が思い思いの場所で過ごせるように工夫している。両ユニットの間には中庭があり、利用者は花壇の花を観賞している。温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は居間での共有スペースで過ごす事が多く、TV前にはソファを設置しており、自由に過ごしてもらっている。時には中庭に出たり、玄関前に設置してあるテーブル等で歌を歌ったり、充実した空間作りの提供を心掛けている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様との協力が入居者様のなじみのある家具を使ったり、居室に入居者様が日頃のレクリエーションで作った作品やぬいぐるみを飾ったりしている。	箆笥、机、テレビ、テーブル、衣裳ケース、時計、仏壇、人形、本、歌本、装飾品(ネックレス、ブレスレット)、観葉植物など、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族写真や造花、カレンダー、自作品を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一に共有スペースでの危険な物は置かず、安全な環境を作り、居室にはその人に合った配置を考え、動きやすい様に工夫している。顔写真とお名前を大きく表示している。共有スペースには分かりやすい様に表示等をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ふなき

作成日：平成28年4月22日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変時や事故発生時の対応力の向上のため、 訓練の継続とさらなるステップUPを目指す。	全職員を対象とした研修の実施と年間の計 画を立てる。	・消防署主催の応急手当、初期対応訓練の実 施。 ・年間計画を作成し、実際の急変を想定した訓 練の実施。(月1回)	12ヶ月
2	2	事業所全体が地域の一員として交流する場面 の見直し。(画一的支援の傾向)	地域の情報を多く取り入れ計画的に地域参 加する。	・地域の運動会や清掃に参加。地域住民合同 での消防訓練を実施。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。